

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300546		
法人名	社会福祉法人 不二福祉事業会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	愛知県蒲郡市竹谷町奥林29-1		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2373300546-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の個性を尊重し、その人の今できる事をして頂く。共に寄り添うケアを心掛け、実践している。
ボランティアやご家族の方が気楽に訪問でき、共に支え合う関係が作られている。
外出などの行事を毎月計画しており、生活に張りを持って過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは1ユニットであるが、リビングの他にも複数のスペースが確保されてあることで、利用者が好きな場所で過ごすことができるように配慮されている。ホームでは、利用者一人ひとりができることに参加できるように、日常的な食事作りや片付け等、利用者もできる事に参加しており、活動的な生活の実現につなげている。ホームの基本理念でもある「ゆっくり、ゆったり」が実現できるように、職員間で一人ひとりに合わせた介護計画等の話し合いが行われており、利用者がホームで、「ゆっくり、ゆったり」感じられるような支援を目指している。市内に関連ホームがあり、ホームとの合同の行事が行われており、利用者同士の交流や職員間の情報交換の機会にもつながっている。また、運営推進会議については、外部の方による講習会の時間もつくられており、様々な方の協力を得ながら開催されている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念が玄関など、目に付く所に掲示されており、常に意識し日々の支援に努めている。ミーティング時などにも話し合い、理念に基づいた支援の統一を図っている。	ホームの基本理念である「ゆっくり、ゆったり」が実現することができるように、職員間で利用者の支援につなげている。理念をホーム玄関ホールに掲示しており、家族や訪問者にも分かるように伝えられている。	理念はホームの支援の基本指針でもある為、現在、ホームのパンフレットを見直している段階である。新しいパンフレットには、ホームの理念を入れることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民として自治会に加入しており、盆踊りやお祭りなどの行事に参加している。	ホームは町内会に入り、地域で行われている盆踊りや神社の祭事等に参加する交流が行われている。また、ホームにボランティアの訪問が得られており、利用者との交流につながっている。	地域の方との日常的な交流の機会が少ない現状がある。次年度以降に向け、日常的な交流の機会が増える事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	買い物や散歩、お祭りなどの行事参加などで、地域の方達との交流の機会を持ち、認知症の方への理解が得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地区の役員の方や、市の担当者を招いて、日頃のホームの様子や外部評価の結果を報告している。また、市の出前講座を依頼して開催したり、興味を持って参加して頂けるように内容も工夫している。	会議については、外部の方による講習会の機会もつくっており、様々な方の協力を得ながら開催されている。会議を通じて、避難訓練を実施する等、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。	会議の出席者が限定されている。地域の方、家族の参加を呼びかけ、ホームの現状を報告し、ホームとの情報交換につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護サービス事業所の連絡協議会に参加し、他事業所との情報交換や運営推進会議にて、ホームの様子を伝えており、随時協力をお願いしている。	市内の介護事業所が集まる連絡会の際には、ホームからも参加しており、情報交換の機会につなげている。また、地域包括支援センターとも情報交換等を行いながら、行事への協力を行ったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の人権を守るという事で、玄関、門扉、などは、夜間と午前の掃除時以外は施錠を行わず、自由な暮らしを支援している。来客や外出者が分かるようにセンサーを活用。外出する入居者には職員が付き添うようにしている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠を行っておらず、職員による見守りながら対応が行われている。また、利用者の状況に合わせた検討が行われており、身体拘束がない生活の実現を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議において、高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行っている。虐待の事実はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する資料を配布し、勉強会を開き、制度についての理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際、家族や利用者に納得して頂けるように説明し、同意を得ている。解約する際も、相手の立場になって考え、今後の生活についての不安が少しでも減らすことができるように、相談に乗っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から、面会がある際に家族の意見や要望を聞く機会を持つように努めている。	ホームでは、年度末に家族会の機会をつくっており、家族との情報交換の機会をつくっている。毎月の面談の機会がつくられており、要望等の把握に取り組んでいる。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な職員会議以外にも、日々の支援の中で気づいた事等をその都度話し合い、支援につなげている。	毎月の職員会議の機会がつくられ、関連ホームとの合同会議や法人の管理者会議も行われており、意見等が運営に反映されるよう取り組んでいる。また、管理者による個別面談の機会もつくられており、職員からの意見等の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は各自一年の目標を提出している。毎月、目標に対しての業務での取り組みを記入し、自己確認している。また、人事考課にて各自が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は段階に応じて参加できる機会を設けている。研修後はレポート提出や随時ミーティングで報告し、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	蒲郡市の連絡協議会に参加し、同業者と情報交換をしている。同法人内のグループホームとは年2回の合同行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接でこれまでの生活歴を聞き、本人の求めていること、不安に感じることを理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所当初は、家族への近況報告を密に行い、常にコミュニケーションを図り、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人と家族のニーズを把握して共有することで信頼関係を築き確認、見極めながら対応に努めている。家族がいつでも相談できる関係づくりをサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の家事に対しても入居者主体で支援している。利用者の生活の場であることを常に頭に置き、日々の関わりを持つようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	これまでの家族関係を理解し、入居者の情報を共有することで、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所前に通っていた場所へ継続して通えるように支援したり、友人、知人の面会もあり、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	利用者の入居前からの友人、知人がホームに訪問したり、馴染みの場所への継続も行われている。また、関連の特養で生活している親族に会いに出かけている方や家族と食事や買い物等で外出している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人一人の個性を尊重し、コミュニケーションが取れるようにサポートしている。気合う人と買い物や散歩に出掛けたり、共に支え合うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	移り住む先の関係者に対して、本人の状況、習慣、好み、ケアの工夫等の情報提供や相談に応じている。退所後にご家族が来苑され、近況報告にて下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とゆっくり話す時間を持ち、思いや希望を聞き取り、ケアプランに盛り込んでいる。	利用者は担当制も活用しながら利用者の把握に取り組んでおり、介護計画に関する報告を通じて、意向等の把握に取り組んでいる。また、独自の「出来る事、出来ない事チェック表」を作成しており、一人ひとりの把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所申込み時、生活歴、環境、日々の過ごし方、趣味、既往歴等を聞き取り、ケアプランに盛り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ミーティング時、意見を出し合い、本人の出来る事、出来ない事の情報交換、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意向を聞き取り、職員の意見交換をモニタリング、カンファレンスに活かしている。	介護計画は3か月で見直され、モニタリングも3か月毎に担当者も参加しながら行われている。家族との面談の時間もつづられており、意向等の確認が行われている。また、職員は介護計画の記号を活用しながら記録を残すように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録には食事量、パイル、入浴等、日々の暮らしの様子を記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。ケアプランに沿った記録を行い、見直しや立案に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期的受診や体調不良時の受診は家族の付き添いで行って頂いているが、家庭の状況や緊急時はホームで臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	大正琴、詩吟のボランティアさんが定期的に来て下さっている。小中学校とも関わりがあり、警察、消防等、何かあった時に協力をお願いしている。定期的に訪問理容にも来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医に、家族付き添いにて受診して頂いている。適切に医療や支援を行えるように、必要に応じて、日頃の様子などを情報提供している。	ホームでは、現状、多くの利用者がそれぞれのかかりつけ医を継続しており、家族による受診支援が行われている。ホームには、週2回、看護師が勤務しており、利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員がいる為、日常の健康管理や医療活用の支援、緊急時に対する支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、安心して治療できるよう、入院時の様子を見に行ったり、病院関係者との情報交換や相談を行っている。退院時は退院後の生活支援について医師、家族、本人と話し合いながら決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、本人と、繰り返し話し合い、状態の変化があるごとに本人・家族の気持ちに注意を払い、方針を共有し支援に繋がっている。	ホームでは、医療面での支援の現状もあり、利用者の看取りを見据えた支援は想定していないため、家族にもホームの基本方針が伝えられている。利用者の段階に応じた話し合いが行われており、次の生活への移行についての話し合いも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	市の出前講座を利用し、消防署員による、AED、人工呼吸、心臓マッサージなどの救急救命の講習を定期的を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員会議にて、避難訓練や避難経路の確認、消火器の扱い方などの訓練を実施している。普段は防災ラジオにて情報を得ている。	ホームで実施している年2回の避難訓練の際には、夜間を想定したり、通報装置の確認も行われている。運営推進会議を通じて、消防署の協力も得られている。なお、ホーム内の備蓄品については準備中の段階である。	現状、地域の方との協力については、継続したテーマでもある。備蓄品の確保も行いながら、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	家事等お手伝いして頂いた時は必ず感謝の言葉を言い、人格を尊重し、プライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。	現状、接遇面に関する勉強会等は行われていないが、ホームが1ユニットであるため、日常的に管理者より注意を促すように努めている。また、利用者のおプライバシーに配慮した声かけ等にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で常に声掛けや様子の観察をし、疑問形で問いかけ、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日中はリビングで過ごされる事が多いので、安心出来る居場所となるよう雰囲気作りに努めている。居室で過ごされる方もいますが、居場所が違って自分のペースで生活されてるので入居者の表情が穏やかになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えを自分でするのが難しい方は、好みを聞きながら一緒に服を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は入居者が手伝いたいと思っているのか、何もしたくないのかを、言葉や動作から読み取りながら声掛け、参加を促している。食事の支度をお一緒に関わって出来る事を見守り、調理を楽しく行っている。	メニューは、利用者の好みや嗜好にも配慮しながら作成され、買い物や調理等、利用者もできる事に参加している。日常におやつ作りが行われており、職員も同席しながら一緒に過ごしている。また、季節や行事に合わせた食事作りも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量を記入し、チェックを行っている。水分摂取の少ない方には声掛けを行って飲んで頂いたり、スポーツドリンクや好きな飲み物を提供し、水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きの声掛け、見守り介助を行っている。義歯の方は就寝前に外し、洗浄し各々のケースに保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の間隔等を把握し、声掛けにて誘導し、トイレでの排泄を支援している。尿意のわからない方、後始末の難しい方などには、本人の気持ちに配慮し、さりげなく介助を行っている。	利用者の排泄に関して、便については全員チェックが行われており、排泄に関する情報の共有につなげ、利用者の中には改善につながった方もいる。また、手作りヨーグルトを提供する等、排泄状態の改善につながる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	介護記録に日々の排便回数と状態を記すと共に、毎回のトイレの見守りや職員間の伝達により、体調管理への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	早く入りたい人、TVを観ていたい人など、各人の希望を確認しながら入浴の声掛けをしている。入浴中は、普段できないような会話を職員とする事を楽しんでいる入居者もおられる。	ホームでは、週3回程度、午後から夕方の時間に入浴しており、拒否の強い方については、自宅のお風呂に家族に協力をお願いしながら対応することもある。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	午後からは、各自ゆっくり休める時間があり、訴えや状況に合わせてエアコンや窓の開閉により温度調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬の説明書が介護記録にファイルされて、職員が確認できるようになっている。薬は飲み終えるのを確認している。処方に変化があった時は、申し送りノートにて確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各個人のできる事、できない事を把握し、日々の生活の中での張り合いや趣味の支援をしている。毎月の行事にて外出やイベントを行い楽しんで頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩や買い物で外に出掛け、気分転換して頂くよう支援している。本人の思いに沿って、墓参りや家族との外出で一緒に過ごす時間を持てるように支援している。	利用者が日常的に外出することができるように、ホーム周辺の散歩や買い物に出かけたりしている。定期的に外出行事が行われており、季節に合わせた花見や紅葉をはじめ、関連ホームの行事の際にはホームから出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員付き添いのもと、毎日の買い物時、個々の能力に応じて支払いをして頂くよう支援している。ホームが入居者の金銭を預かり管理しており、必要に応じて個々の欲しい物を購入している。毎月、ご家族には収支の確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望に応じて、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は、日当たりも良く外の景色もよく見え、季節を感じることができる。道路から離れているので、車の騒音も無く、静かに過ごす事ができる。	リビングはゆったりとしており、複数の部屋が確保されてあることで、利用者が思い思いに過ごすことができる環境である。また、ホーム内は、多くの絵画が掲げられた和風の雰囲気であり、採光に優れた環境でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用の部屋(リビング、ダイニング、和室)は3か所あり、それぞれ自由にTVを観たり、気の合った者同士でお話したり、新聞を読んだりゆったり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室には使い慣れた家具や私物を。中には位牌を置かれる人もおり、本人が居心地良く過ごす事ができるように配慮している。	居室には、利用者により使い慣れた家具類等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者によりテレビを持ち込んだり、家族の写真を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日常的に使用するトイレには分かりやすいように表示したり、居室入口には表札やマスコットを掛けて、混乱しないようにしている。玄関にはベンチを設置している。		